



——第7回 長く付き合うために——2016.11.6

「生け垣を育てる」ことは屋外での「植物を育てる趣味」を持つ、良いきっかけになります。花の季台全体で「生け垣の保全推進」に取り組んでいるこの機会を利用して、植物に興味を持ち知識を広められたらいいでしょうか。植物を育てることは生け垣もガーデニングも菜園も同じことです。この連載は自治会のホームページを開けば、これまでの6回が全部見られます。自分の趣味の一つに加え、将来、庭木の手入れでもしてみようかと思った時の参考にして下さい。

生け垣を守るため近くの樹木の根切りを

庭には生け垣のほか樹木が1～2本植えられていると思いますが、この樹木たちも生け垣の木と同じく、日ごろからの管理が必要です。また、この樹木たちは生け垣の近くまで根が張ってきて養分を吸い取ります。そのため生け垣の木が養分不足で育たないことがあります。その時は生け垣の木を守るために樹木の周りに大きめのスコップを差し込み、樹木の根を切ってやる必要があります。実施するのは2～3月の樹木の休眠中です。

ポイントツリーの根元にオルトラン散布を



花の季台の多くの家庭ではポイントツリーの指定樹種のハナミズキとヤマボウシ＝写真④＝が植えられ、咲く時期がずれ楽しませてくれます。ハナミズキは北米産で桜と交換にワシントン市から明治時代に送られてきました。年月が経つと花が小さくなるので、根元に鶏糞の施肥が必要です。樹形は一本立ちで自然の形の剪定が良いと思います。ヤマボウシは日本の山林の自然の中で育った管理のしやすい木です。大きな樹木で薬剤散布の出来ない場合、植物公園などで実施されている方法ですが、オルトラン粒剤などを根元の周りの2～3カ所に埋め込みます。家庭でも薬剤の散布が難しい所とか、樹木全体が害虫にやられた場合にはこの方法を使います。

生け垣をきれいに見せる芝生の管理

芝刈りは専用の芝刈り機での作業になります。芝の種類には日本芝(コウライ芝)と西洋芝(ベント芝)があり、一般の庭には日本芝が多いようです。今から芝を植えてみようと思う方は土壌作りが大切です。施肥・水やり・雑草取り・芝刈りなど多くの作業がありますが、青々とした芝生の上でバーベキューをするのは楽しいことです。また、夏の太陽の光線を和らげ、雑草が生えるのを防ぎます。

～～見栄えの良い芝生にするポイントは生え際をきれいに刈ることです～～

参考資料「緑化管理者養成講座」